

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200047		
法人名	株式会社 高木建材		
事業所名	グループホームぼぶら		
所在地	山梨県富士吉田市中曽根1-8-25		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年9月28日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人の尊厳に立脚した自立支援。</p> <p>「目配り・気配り・心配り」を、「口を出さない・手を出さない・見逃さない」で実践し、利用者の残された能力の維持向上に努め、利用者の足らざる所を支援してゆく。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、富士山の麓の国道沿いにあり、商店にも近く、日当たりのよい住宅地にある。同一敷地内にデイサービス・訪問介護・居宅介護支援の事業所があり双方の交流を通じて地域との馴染みの関係が継続出来ている。建物は平屋で開放された玄関を入ると事務所があり左右のユニットに分かれている。居間からウッドデッキを経て自由に庭に入ったり、花や野菜から季節感を味わいながら十分な外気浴が出来る。浴室・トイレ・居間等の行き届いた環境の中で利用者は、職員に見守られて持っている力を活かした生活を送っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	理念は、事務所の職員の目に触れる所に貼り意識づけている。毎日9時と13時のミーティングの中で利用者の対応に迷った時は理念に戻って支援を振り返るように話している。日常生活の中では、待つ時間を大切に利用者の持っている力を活かした支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	毎年11月開催される地域の文化祭には、利用者の作品を出展している。自治会からも期待され、10点近くの作品を制作中である。保育園児の訪問やピアノ・歌・話し相手・絵手紙等のボランティアの訪問も多く地域との交流が日常的になされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加をしたり、地域住民が参加が出来るイベントを開催し、地域交流の中で貢献している。	積極的に地域行事に参加をしたり、地域住民が参加が出来るイベントを開催し、地域交流の中で貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見や課題、評価を施設内でも分析し利用者へのサービス向上を図っている。	頂いた意見や課題、評価を施設内でも分析し利用者へのサービス向上を図っている。	2か月に1度第3水曜日の14時から開催している。毎回13～15名の出席がある。「スタッフの顔と名前が分からない」との意見があり、職員の写真にコメントをつけて作成中である。外の道路の草取りの手配を委員から行政に働きかけてもらう等サービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	利用者の対応や市からの問い合わせ等で日常的に電話でやり取りしている。市の担当者と協力体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	入職時の研修や月1回の会議等を利用して身体拘束をしない支援を話している。日常的な支援で拘束につながるような場合は、スタッフで対応を話し合っている。事務所が玄関の出入りを見守れる場所にあるので、常に玄関は開放してある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内通信や研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。	社内通信や研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーを中心とし、必要に応じて関係者と話し合い、活用の際は職員含め、支援に努めています。	ケアマネージャーを中心とし、必要に応じて関係者と話し合い、活用の際は職員含め、支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけて説明し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。	契約時、時間をかけて説明し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	家族の面会時には、職員から声掛けをして話しやすい雰囲気づくりに心がけている。2か月に1度家族向けの「ぼぶら通信」で事業所の様子を知らせたり、個々の利用者の情報を伝えている。「土日は、誰に相談したら良いか？」との家族の意見に応じて、管理職が交代で出勤している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケアスタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っています。	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケアスタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っています。	年1回のヒアリング、月1回のスタッフ会議や職員連絡ノートもあるが、口頭で話をする職員が多い。レクリエーションの提案書は職員から出てくる。業務が忙しい時間と職員数が合っていないとの意見から職員のシフト体制を見直す話し合いを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、資格、研修実績、利用者や家族の評価等を客観的に数値化し、職員のやりがいに繋げるよう、制度改革に着手している。	職員の勤務状況、資格、研修実績、利用者や家族の評価等を客観的に数値化し、職員のやりがいに繋げるよう、制度改革に着手している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の人生の来歴を把握、理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者本人の人生の来歴を把握、理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしています。	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしています。	入居前からサークル活動をしていた利用者に面会があったり、図書館に行ったり、無尽に出かける利用者もいる。家族の法事や、孫の結婚式に参加したり、外泊する利用者もいる。職員として個々の利用者の馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席決めに配慮したり、利用者の中に職員が入ったりして、利用者同士の関係性を築ける様支援している。	リビングでの席決めに配慮したり、利用者の中に職員が入ったりして、利用者同士の関係性を築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お世話になりましたと差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とさせていただきます。入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じています。	お世話になりましたと差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とさせていただきます。入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは個別に、その方の思いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践しています。	スタッフは個別に、その方の思いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践しています。	入居前のいろいろな情報からそれぞれの方の意向は把握している。また、行事に参加している様子や日常的な関わりの中でその時々の方の利用者の表情から思いを掴んでいる。理念にある「見逃さない」を徹底して利用者寄り添ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を拾い上げ、その情報をスタッフの中で共有している。	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を拾い上げ、その情報をスタッフの中で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。		
	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	入居前の情報と本人、家族の意向を聞き暫定プランを作り、2週間～1か月後に見直しをして新しい計画書を作成している。その後はスタッフと計画作成者が共同で毎月モニタリングし、長くても半年毎の見直しをしている。入院等で状態が変化した時は、その都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立て頂いています。	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立て頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に、各ボランティア団体と交流が来ていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。	日常的に、各ボランティア団体と交流が来ていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	事業所の往診医はいるが、3分の1位の利用者は入居前のかかりつけ医を受診している。受診時は、家族に入居者総合管理表で日頃の体調について情報提供し、受診後は家族から報告を受けている。定期受診以外の時は、ケアマネジャーが同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切な看護に資するよう努めている。	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切な看護に資するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡、情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡、情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については契約時に時間をかけて説明し、現状でできる限り、事業所として対応支援することを説明している。	重度化した場合については契約時に時間をかけて説明し、現状でできる限り、事業所として対応支援することを説明している。	看取り指針・看取りの対応マニュアルは作成してある。医療行為が必要になった場合以外は可能である事を入居時に説明してその都度家族に判断してもらっている。1名看取りを行った経験があり家族から感謝の言葉があった。看取り期になった時は、夜勤の職員が安心出来るように管理者等が適宜アドバイスをしていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。また、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。また、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月、夜勤時を想定して行っている。地域の方との協力体制については、民生委員さんや自治会長の方々と考案中です。	避難訓練は毎月、夜勤時を想定して行っている。地域の方との協力体制については、民生委員さんや自治会長の方々と考案中です。	地形的に水害被害はないと思われるので毎月の訓練は、地震と火災の訓練を行っている。終了時は報告書を作成し、災害マニュアルもある。消防署立ち合いの訓練は年2回実施している。同じ訓練を2~3回行い全職員が体験出来るようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	方言を使った親しい関係を喜ぶ利用者だけでなく、標準語の方が良い利用者もいるので、一人ひとりに合わせた言葉遣いを心がけている。排泄の声掛けは周りの方に配慮したり、居室に入るときは声を掛ける等利用者の人権を尊重した対応を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、スタッフがお手伝いをしている。	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、スタッフがお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事の献立は、利用者の意向を聞きながら管理者が作成している。食材は業者に依頼するが、野菜は近くの店で新鮮な物を購入している。食事作りの担当職員がいるが、出来る事は手伝う利用者が多い。気候の良い時期は回転ずしやコーヒー店等に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。	食べる量や水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員が職員が確認し、必要に応じて仕上げ洗いをを行っている。	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員が職員が確認し、必要に応じて仕上げ洗いをを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	1つのユニットにウォシュレット付きトイレが3か所あり、車椅子も可能である。布パンツ利用の利用者は、2~3名で他の方はハビリアパンツとパットを使用している。排泄記録から必要に応じて声掛け誘導している。常時オムツ使用からトイレで排泄出来るようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めています。個々によっては、内服薬の見直しもしている。	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めています。個々によっては、内服薬の見直しもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	浴室は、各ユニットに取り外しが出来るリフトチェアーがあり、身体的に困難な利用者も安心して入浴が出来る。入浴を拒む利用者は、時間をずらすか曜日を変えるなどの対応で少なくとも週2回の入浴をして清潔が保てるように支援している。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに報告している。	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもって頂いたり、趣味として好んでいる事に取り組んで頂くよう配慮している。	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもって頂いたり、趣味として好んでいる事に取り組んで頂くよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	全員一緒ではないが、2~3名のグループで外出している。桜や蓮の花見やさかな公園に出かけたり、買い物や友達とコーヒーを飲みに行く利用者もいる。居間からウッドデッキに出て庭を散歩したり、周囲の風景を見るなど日常的に外気浴や気分転換が出来る環境が整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残された能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。	残された能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	居間は、床暖房になっており、冬季はこたつの用意もある。空気の乾燥に配慮して加湿器や視野を邪魔しないバスタオル掛け等の工夫がある。調度品や飾りつけもごく自然で家庭的な雰囲気であり、掃除も行き届いていて清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	備え付けのベッド・大きな押し入れ・エアコン・カーテン以外は、自由に好きなものを持ち込んでいる。使い慣れた家具や写真・マスコット等が置かれて利用者が安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸と居室の戸の色分けや、居室からトイレの導線に配慮、手すりの配置、ベランダから庭へと続く、癒し空間の設置等、工夫をこらしている。	トイレの戸と居室の戸の色分けや、居室からトイレの導線に配慮、手すりの配置、ベランダから庭へと続く、癒し空間の設置等、工夫をこらしている。		